水田・里山放牧ニュースレター　第 20 号

畜産草地研究所における放牧風景

2007年 10月 9日

発　行　水田･里山放牧推進協議会
事務局　畜産草地研究所（那須研究拠点）
〒329-2793　栃木県那須塩原市千本松768
TEL 0287-37-7003　FAX 0287-37-7132

平成１９年度第１回現地検討会
＜水田里山放牧推進協議会主催＞ が開かれる

８月３０日、栃木県の県南に位置する那珂川町（旧馬頭町）および那須烏山市（旧烏山町）において、現地視察と情報交換会が開かれました。遠方からは佐賀畜試や茨城県大子町畜協からの参加を得、参加者は２６名でした。

耕作放棄地での放牧実施農家の現地視察：現地視察では、栃木県南那須農業振興事務所の木下勉さんによる現地での状況説明を受け、農家さんとの質疑を行いました。

那珂川町にある「**石田牧場**」は、雑木林を背にした耕作放棄田畑を、林と一体として放牧利用しています。妊娠確認後の黒毛和種牛を５月上旬から１０月下旬まで放牧します。一部借用地もありますが、120a（畑跡地 50a、水田跡地 70a）に加えて、林地は 30a です。イタリアンライグラスの表面播種で草生産の向上を図っており、また放牧地に隣接する牛舎を廃材等を利用して自前で作っています。石田さんは、勤めと牛飼いの二足のワラジですが、飼養管理の軽減と繁殖牛の健康増進があると、評価しています。さらに、近隣での放棄田畑の除草管理作業が軽減されることから、規模の拡大の意向を持たれています。

木下さん(左）による「石田牧場」の説明。簡易牛舎は廃材利用した手作り

裏山の林地と一体で放牧利用

放牧地から川を挟んだ向かいを望む

那須烏山市にある「**小口牧場**」は梨園跡を借り受けて、黒毛和種繁殖牛を放牧しています。この梨園は、梨棚用のワイヤーが放置されていたために、その撤去作業に多大な労力を要したとのこと。近隣では放牧が行われていないために、当初は小口さんを含めて周囲の人たちも心配であったけれども、普及関係者の協力によって実施にこぎつけ、放牧で景観が良くなったと評判も良いようです。通学路添いに位置していますが、電気牧柵に関して問題も無いとのことです。小口さんは病気により酪農を止めたのですが、現在は放牧による規模拡大に意欲を持たれ、梨園跡の棚用ワイヤーの撤去をしないで放牧を行

富岡市地区での耕作放棄地への放牧活用の取り組み

放牧研修の会場となりました群馬県富岡市地区では、高齢化により耕作放棄地が 42%まで達し、鳥獣被害が増えています。このことがさらに耕作放棄地を増やすという悪循環になっています。

そのため、市、ＪＡ，**富岡地区農業指導センター**が協力して、放牧に取り組んでいます。これまでの事業により、原野化していた遊休荒廃地は、放牧開始後１年できれいになることが実証され、水が有ればどこでも放牧が可能であることが確認されました。しかし、野草だけでは草量不足を来すために、牧草の播種よる草地化を進めています。平成１８年には放牧面積 3.2ha から 4.8ha に増加しています。

電気牧柵の利用により、牧柵の設置は容易であり、また牛舎等も足場パイプによる簡易施設で十分でです。また、冬季の飼料として稲発酵飼料の購入先を確保し、周年屋外飼養が可能となりました。低コストな和牛繁殖経営として期待されています。

イネのヒコバエへ放牧

水田の収穫跡地ではヒコバエが旺盛に育っている所があります。常々、放牧して牛に食べさせられないか、と思っていましたが、それを実行された方がいました。以下、徳島県立農林水産総合技術支援センターの**福井弘之さん**からの報告です。

今年は温暖でしたので、水稲の蘖（ヒコバエ）が旺盛に生えました。収穫は８月上旬でしたが、１０月上旬には乳熟期になっている所もありましたので、牛を放してみました。最初は畦畔の草を食べていましたが、ついでイネの穂から食べ始めました。収量は生草で 400 ～ 600　kg/10a でした。イタリアンライグラスを組み合わせて放牧するにも、イタリアンライグラスがそれなりの収量となるまでは、蘖に放牧ということが可能かもしれませんね。施肥と入水で収量の向上も有るでしょう。

第７回放牧サミットが十和田市で開催される

十和田市を会場とし、「購入飼料費高騰の今こそ放牧を」をテーマとして、第７回放牧サミットが開催されました。小規模放牧の先進地域である山口県農林水産部の島田さんから、小規模放牧に至るまでの経緯と組織作りの重要性についての基調講演を受け、中央農研の千田さんは放牧導入による規模拡大は購入飼料の増をもたらすこともあり、飼料自給率向上とは逆の方向に進む可能性を指摘されました。ジャーナリスト増田さんは、生産者はいろんな場面で、消費者に畜産の実態を知らせる努力が必要と、話されました。

（発行責任者　高橋繁男）

これまでのニュースレターは、畜産草地研究所のホームページにある水田・里山放牧推協議会（http://houboku.ac.affrc.go.jp/index.html）に掲載されています。

ご質問・要望等がございましたら、以下にご連絡ください。
〒329-2793 栃木県那須塩原市千本松768 畜産草地研究所那須企画管理室連絡調整チーム
FAX:0287-37-7132　E-mail: kouryu_nasu@naro.affrc.go.jp

おうと考えています。

ワイヤーの棚が残された梨園跡地
奥の梨園は利用されている

放牧で景観の良くなった跡地に
牛が寝そべっている

小口さん（左）の説明を受ける参加者

情報交換会：午後は会場を栃木県酪農試験場南那須育成牧場に移して、情報交換を行いました。畜産草地研究所の放牧管理研究チーム上席研究員大槻さんから、耕作放棄地放牧の種々な形態の紹介に続いて、「石田牧場」のような隣接する林地との組み合わせ放牧の特徴の説明を受けました。林との組み合わせ放牧は、牛の免疫機能が上昇するなど良い効果があるとの研究結果もあるようです。人も森林浴が健康に良いといわれていることから、牛にも同様の効果があることが期待されます。そのような効果が明らかになれば、中山間地の多くでは水田の裏手に山があることから、林と草地の一体利用が進むものと考えられます。

引き続く情報交換での主な論議は以下のようです。茨城県大子町では、放牧研究会、畜産農業協同組合、町が連携し、耕作放棄地での放牧を推進しており、参画戸数は 32 戸、30ha に達しているとのことです。このようなことから、茨城県全体では肥育牛頭数は減少している中で、大子町では頭数が維持されています。家畜と耕作放棄地とを結びつける仕組み作りが成果となって現れています。佐賀県では、県による放牧の取り組みが強化され、６戸による放牧が取り組まれています。しかしながら、暖地における放牧適草種やワラビ駆除が課題となっています。日本草地畜産種子協会では、南東北、関東、九州の３地域で、耕作放棄地放牧に適した草種試験を実施しており、近々にその成果が出るとのことです。九州の低標高地では寒地型永年牧草は不向きであり、繁殖牛に対してはセンチピードグラスやシバ、水田跡地では栽培ヒエ、放牧期間の延長に対してはイタリアンライグラスの利用が考えられます。また、耕地全面に繁茂したワラビ駆除にはアシュラムなどの除草剤の活用となります。

大槻さんによる耕作放棄地
放牧の特徴の紹介

南那須育成牧場の島田場長に
よる牧場説明

良く整備された南那須育成牧場

耕作放棄地での放牧拡大をめざした研修会
＜革新的農業技術習得研修会＞が実施される

農水省の委託事業として、９月４，５日に革新的農業技術習得研修が群馬県を会場として開催されました。会場は**群馬県富岡合同庁舎**であり、現地研修の場としては耕作放棄地放牧を実施されている「**茂木牧場**」でした。講師は畜産草地研究所の放牧関連の研究者であり、その内容は、「放牧の準備」、「草地の造成・管理技術」、「放牧牛の栄養管理」、「放牧牛の衛生管理技術」、および「放牧地の環境影響評価」と幅広い内容でした。参加は者は岩手県から宮崎県までの広範な地域からであり、各県に於いて普及活動をされている方々です。

地域によって放牧の実施に濃淡があることから、参加された方によって知識や経験に大きな相違があったように思います。そのため、講義内容に不満があった方や、「なるほど、そういうことか」との感想を持たれた方があるようです。もとより放牧は、舎飼いとは違って、おかれた条件を活用する技術ですから、基本を踏まえた上での工夫が必要です。参加された方々は、今後連絡を取り合いながら、地域での放牧普及に努めるとの思いを胸に、帰路に着かれました。ご活躍を期待致します。

研修会に参加された方々と講師、および現地研修のお世話を頂いた方々

現地研修の場を提供頂きました**茂木正雄**さんは、現在、９頭の繁殖牛と仔牛５頭を飼養しています。リタイヤ＜以前は工場経営でした＞後に古里の自己農地を中心とし、近隣の地権者との話し合いによって、放牧地を拡大しています。放牧地は 6ha ですが、ほとんどが急峻な林地であり、尾根づたいが草地となっています。平成１５年に黒毛繁殖素牛の導入と施設整備を自己資金でまかないました。茂木さんの感想として、牛飼いと工場経営の違いは、工場経営では動き始めると直ぐにも金が入るが、牛飼いは１年を待たなければならない、とのこと。現在も、シバ地の造成、牧草播種による草地の拡大、牧柵の設置などをご夫婦で行っています。牛飼いの基本は草地作りであるとして、土地条件に合った草地拡大への工夫と努力に余念がありません。

手作りの施設を背に茂木さん

急峻な山の尾根は
牧草地に

平場に造成したシバ地での牛親子